

経営比較分析表（平成30年度決算）

福島県いわき市 いわき市医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感災地輪
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
324,246	63,451	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

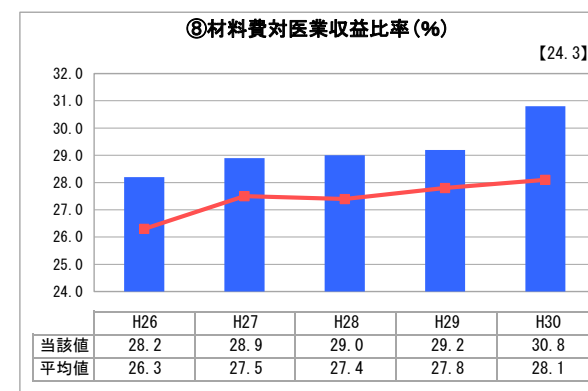
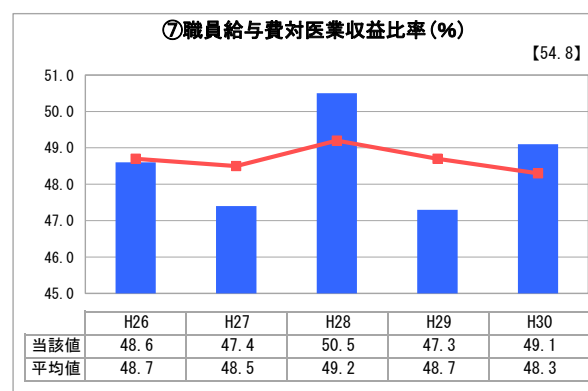
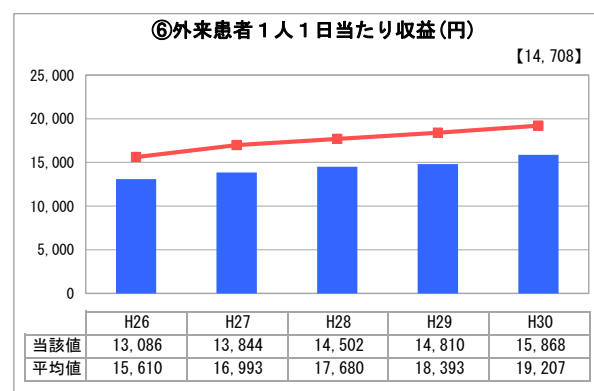
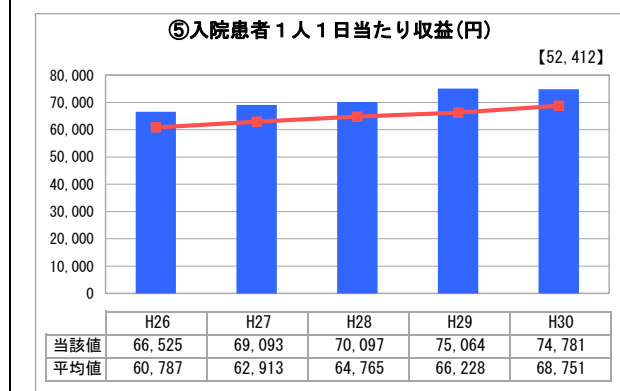
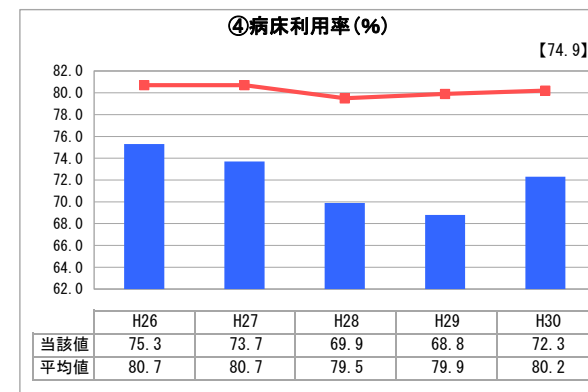
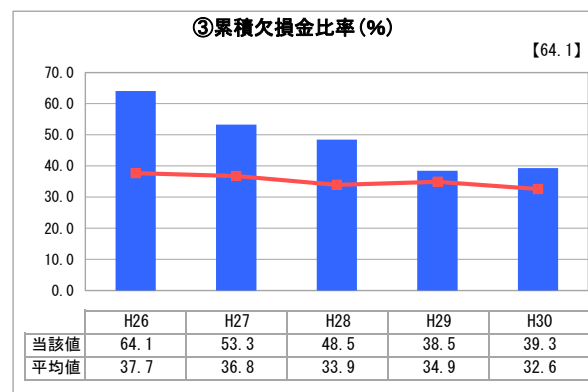
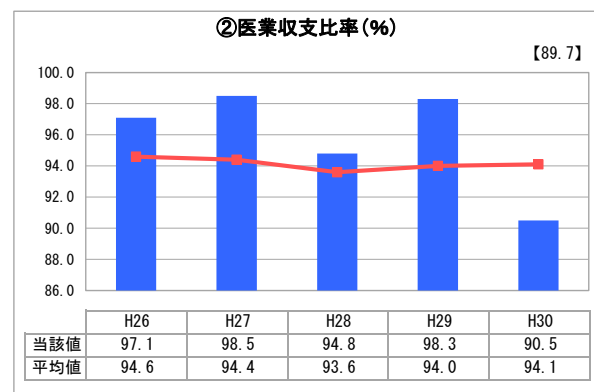
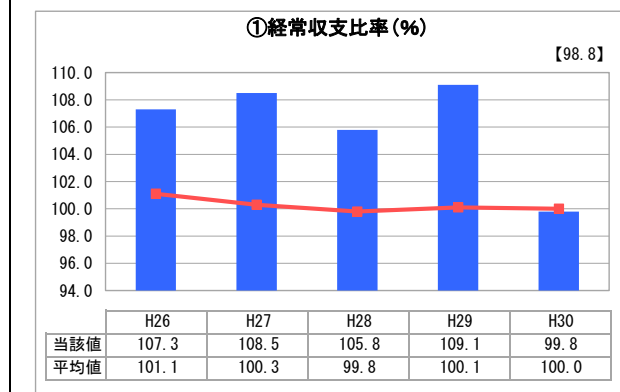
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
679	-	15
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	6	700
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
679	-	679

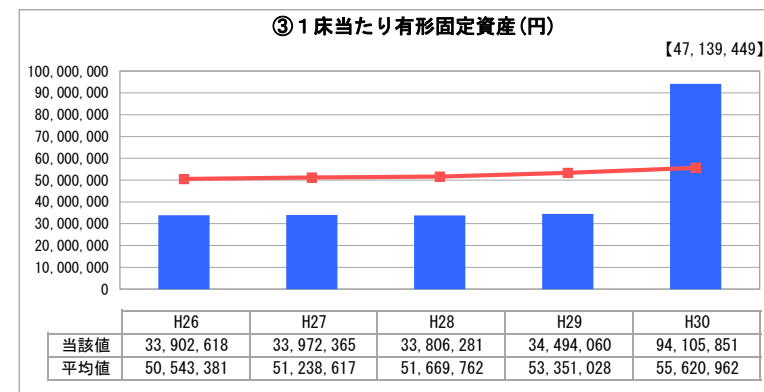
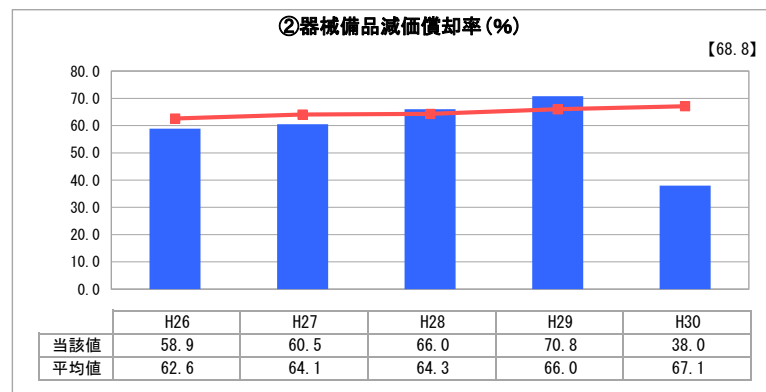
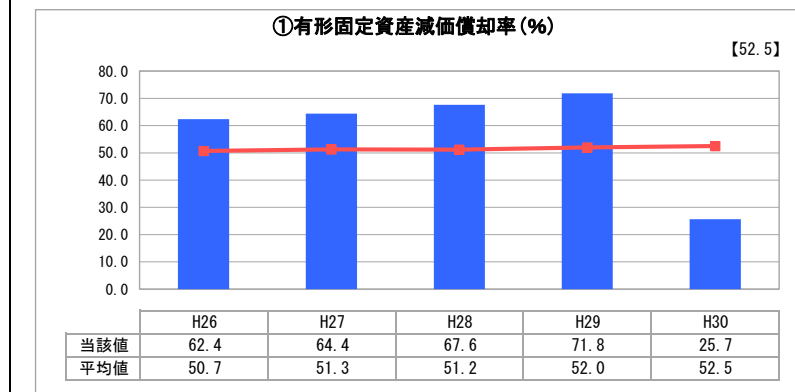
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

平成30年12月に「医療センター」として開院したところですが、引き続き、救命救急センターを核とした第三次救急医療をはじめ、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター等の役割を果たし、地域の中核病院として、福島県いわき医療圏および本県浜通り地区の高度急性期医療を担うほか、臨床研修指定病院として、地域医療の将来を担う医療従事者の育成を図るなどの役割を担っています。こうした役割を果たしていくため、将来にわたって持続可能な経営基盤の強化に努めています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・「①」は、新病院への機能移転に伴う入院患者数の減員調整や、一時的な移転費用が生じたことで、経費が増加したことなどから、「②」と併せて平均を下回っており、「③」は、やや増加しています。
- ・「④」は、平均在院日数の減により減少しています。「⑤」は常に平均を上回っているものの、「⑥」は常に平均を下回っています。
- ・「⑦」は、初期臨床研修医の増などから、平均を上回っています。
- ・「⑧」は、高額薬品の使用が伸びていることなどから、増加傾向にあります。

2. 老朽化の状況について

- ・平成30年12月の新病院の開院による施設整備と医療機器購入により、「①有形固定資産減価償却率」は平均を大きく下回っており、「③1床あたり有形固定資産」は、平均を大きく上回っており、「②器械備品減価償却率」は、平均を大きく下回っています。

全体総括

平成30年度は、新病院の開院に伴う機能移転の影響で、各項目ともに、大きく変動しましたが、同年度に予定していた純損失が大幅に改善されるなど、経営状況は概ね健全であると判断しています。なお、「④」は在院日数の減により平均を下回っていますが、地域医療連携の推進を図り、新規患者を確保するなど、「⑧」は増加傾向にあります。購入方法の更なる改善を行うなど、今後、人口減少や少子高齢化が進展する中で、医療需要が大きく変化することや、働き方改革への対応など、これまでに以上に経営の健全性と効率性を高めていく必要があることから、新病院の機能を十分に発揮しながら医療の質の向上を図るとともに、更なる経営の安定化に努めます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。